
阪神・淡路大震災での避難所医療における災害医療用語と報道用語

(久保山一敏、日本集団災害医学会誌 4: 98-104、2000)

2015 年7 月17日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

概要：阪神・淡路大震災後の避難所医療に関わる3用語、“被災者・避難所・救護所”について、用語集と新聞紙上で、日本語・英語両面から調査した。“被災者”と“避難所”、その類語は一部が学術用語として定義付けされつつあった。しかし、“救護所”を意味する学術用語は見出せなかった。これら3語は、行政の現場や日本語の報道ではほぼ統一して使用されていた。一方、英字紙上での英語訳は多様で不統一であった。これらの3語は、避難所医療を論じるにあたっては基礎となる単語である。報道との整合性を保ちながら、災害医療専門用語として概念・用法・英語訳の統一を図ることが必要である。

1) 「被災者」について

○本震災における被災住民の意味で用いるのは適切であると考えられるもの

- ・被災者、(quake) victim
 - …災害によって損害を受けた人 (災害医学用語辞典)
 - ※victim は犠牲者という語意も含むので注意が必要
- ・被災民、affected people
 - …自然災害や各種人為災害などの様々な不本意な原因により、本来の生活場所での生存が継続できなくなった人々 (被災民研究)
- ・避難民、(quake) evacuee
 - …安全と健康を守るために他の場所へ一時的に避難した人 (災害医学用語辞典)
 - …各種災害により居住地から離れ、集団生活を余儀なくされている人々 (被災民研究)

○本震災における被災住民の意味で用いるのは不適切であると考えられるもの

- ・難民、(quake) refugee
 - …明らかな迫害の恐れがあるため、自国の保護を受けられないかまたは受ける意思のない自国の外にいる人々 (災害医学用語辞典)
 - …国連難民条約もしくは難民議定書などの定義を踏まえ、特に本来の居住地を離れ国境を越えて他国に避難した人々 (被災民研究)
- ・流民、displaced resident
 - …種々の理由、事情により故郷(国)を去ることを余儀なくされた人々。自国内や外国に住むが難民と認定されない人 (災害医学用語辞典)
- ・国内避難民(難民)、displaced resident
 - …いわゆる難民と同様の環境下にあるが、国境を越えていない人々 (被災民研究)

2) 「避難所」について

○本震災における避難施設の意味で用いるのは適切であると考えられるもの

・避難所

…災害によって被害を受けた者、あるいは被害を受ける恐れのある者の収容及び一時的な生活が可能な場所として、地方公共団体が設置する施設。町会や学区ごとに学校や公民館などの公共の建物が主に指定される (imidas 1996)

・定住前一時収容センター

…避難民(あるいは他の災害の被害者たち)が、再出発の進路が決まるまでの間収容されるセンター (災害医学用語辞典)

※語義からは適用できると考えられるが一般にはなじみにくい

・shelter、house、center

shelter は“避難する場所”という意味から誤解を招きにくい基本語と考えられる。house は“仮設住宅”の意味で用いられることがあり、center は他の用語と組み合わせて初めて避難施設、被災者の共同生活の場という意味が生じるので注意が必要である。

○本震災における避難施設の意味で用いるのは不適切であると考えられるもの

・収容施設

…難民、無国籍者その他の被迫害者をその国の同意を得て国内に一時または永久的に滞在させる施設 (災害医学用語辞典)

・経過センター

…難民が出発するまで生活するセンター (災害医学用語辞典)

・camp、tent

野外生活のニュアンスが加わり、現実とは異なる環境を想起させる可能性があるため不適切である。

3) 「救護所」について

西宮市では、本震災後の避難所に開設された応急の診療施設を“救護所”と呼んだが、これを意味する用語は少なかった。「臨時診療所」「臨時救護所」「medical station」「temporary clinic」という用語が用いられていたが、頻度も少なく定義付けが不十分であった。

4) まとめ

“被災者”、“避難所”、“救護所”の3語は災害報道ではごく一般的に用いられており、災害の現場でもこれらの用語は機能している。しかし、専門用語としてのこれらの用語には曖昧な点が多いことが分かった。災害亜急性期の医療についての考察を深めるためにも、概念・用法・英語訳の統一が早急に必要だと考えられる。